

プロからプレー学ぶ

ハンドボール 教室を開催 豪快なシニユート披露

日本ハンドボールリーグ 古島ハンドボール教室が参加している沖縄のプロ17日、北中学校体育館で開催された。午前中は小中学生、コラソンの選手による「宮」午後は高校生を対象に行わ



バスの投げ方を指導する久高選手（左から4人目）＝17日、北中学校体育館



ミニゲームで豪快なシュートを放つ伊計選手

れ、合計で約40人がプロの技やプレーをする上での考え方などを学んだ。

同教室には琉球コラソンから球団代表取締役を兼務する水野裕矢選手のほか、伊計勇太、久高清満、宮本

翔太郎、下地翔太、中村彰吾の計6選手が参加した。高校生対象の教室では、ウオーミングアップに続

き、2人1組でのバス練習する水野裕矢選手のほか、や、ゴール前でのボールを使わな

コート全面を使った3人1組での速攻の練習などを行った。

水野選手は宮古の高校生

シがで

パスでは、キャッチミスをしな

ボールを投げたりフットワークは

た）と

や、1対1では互いに自分

が悪く、速攻の練習などに

宮古

から当たりにいって押し負

けないようにすること、速攻では

宮古

互いに声を掛け合ってア

プスを出しつつ、協調性も

小中

にコラソンの選手から参加

者」に指示やアドバイスが出

た。

最後は高校生対コラソン

選手によるミニゲームも行

た。

われ、高校生が健闘する中、

コラソンの選手たちは豪快

化事業

の池間研人キャプテンは

「速攻でコートを広く使え

ツッ

れているが、今回は具体的

な指摘をもらい、イメー

た。

今回

宮古

た。

宮古

宮古

た。

宮古

宮古

た。

宮古

宮古

た。

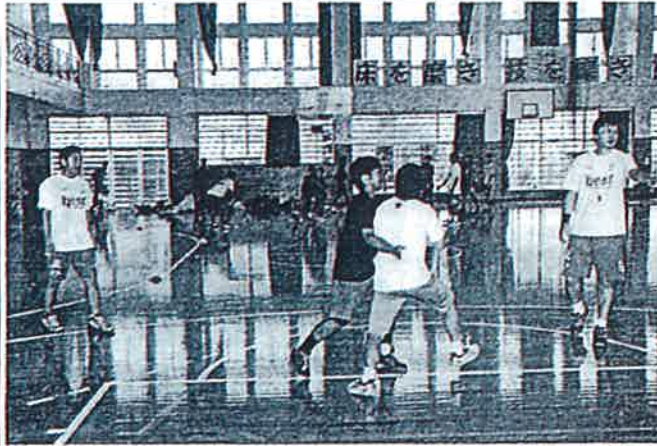
指導熱く向上へ技術

クラソンハンド教室

水野GMら6選手が

ハンドボールの日本リーグなどで活躍する「琉球クラソン」(水野裕矢選手兼GM)のハンドボール教室が17日、北中学校体育館で開かれた。午前中に小学生、午後は高校生を対象に基本動作や1対1のディフェンスなどを指導。選手たちの熱い確かなアドバースを受けながら参加者が真剣な表情で取り組んでいた。

この教室は、県スポーツ・ツーリズム戦略推進事業の一環で実施。同チームは、ハンドボールの普及と技術向上を目的に、ウェーミングアップの方法から個別スキルアップなどの指導を行



ハンドボール教室で、1対1のディフェンスを指導する琉球クラソンの久高選手(左)、伊計選手(右)=17日、北中体育館

い、小学校低学年から高校生まで幅広い年齢層にハンドボールの面白さを伝え、次代のアスリート育成につなげている。

この日参加したのは、水野GMをはじめ伊計勇太、久高清満、青木翔太郎、下地翔太、中村彰吾の6選手。午前9時から、スポーツ少年団で活動する児童や北平良両中学のハンド部員らを対象に、パスやドリブルな

どの基本動作を指導。午後1時からは高校生らを対象に1対1のディフェンスや3人1組での速攻技術などを教えた。久高選手は1対1のディフェンスで「良くなっていくが、あと一歩前で当たることが、自分自身に大きくないが190センチの選手でも止める自信がある。自分からしっかり当たりに行けば相手に押し込まれない」とアドバ

イスしていた。教室の中で、水野選手は「宮古でハンドをしている子たちは、より高いレベル・技術に触れる機会が少ない。現役のプレーヤーが教えるのでまた違った刺激になる。県の事業があるお陰でそこと良い環境ができています」と説明しながら、「宮古の子たちは、良いボールを投げるし、1対1も強いが、荒削りでミスが多い。ハンドの経験値が低い。浦添地

区など小さい頃からやっている」とミスが少ない。ハンドはボールを動かす競技。その辺りの技術・経験も高まるとう面白。その上で圧倒的な攻撃力やディフェンスの強さとかを持てば、浦添地区の選手とかにも対抗できるのでは」と期待を寄せた。

また閉会式では、宮古屋市ハンドボール協会の平良忠雄会長が「今日学んだことを日ごろから継続して練

習し、試合に生かしてほしい」と呼びかけ。水野選手が「徐々にメニューを理解し、良くなっている。自分たちの良い所を生かして、仲間と協調性を持ってアタックレッシュにやっていけば強いチームになれる。僕たちも沖縄を代表するチームとして皆さんの誇りになれるように頑張る。将来、皆さんの中からクラソン入りの選手が出るよう期待している」と述べた。